

学 界 消 息

1. 総会の日取りきまる

日本気象学会の総会と春の大会は5月14, 15, 16日に東京で開かれることになった。

2. 東北支部気象学会が開かれた

さる1月21日(火)福島県飯坂の婦人会館において、東北地方気象研究会ならびに東北支部気象研究会が盛會裡に開催された。

3. IGY 関係出版物について

イ. IGY (国際地球観測年, International Geophysical Yearの略) 観測資料は世界資料センター(WDC)と略される)に集められ, WDCは各地におけるIGY観測資料を利用したい研究者に実費領布の便をはかる。この資料は気象庁にも来ることになっている。このことについての詳しいことは、気象分科会幹事の北岡竜海氏にご連絡下さい。

ロ. これらの資料を使つての研究調査報告や, IGY観測に使われる測器の説明, 測器に関する研究報告等IGYに関連する出版物の文献総目録を IGYCSAGI (国際地球観測年特別委員会の略) 本部で発行する計画になっており, 各国もこれに協力することになった。

これについて日本の国内委員会ではつぎのようにすることにきめたから, 会員の中でこの関係の資料を用いた論文を発表された場合はつぎのようにしていただきました

い。

論文の別刷4部に IGY meteorology と朱書して気象部門幹事 北岡竜海氏 (宛先は東京都千代田区大手町, 気象庁高層課) あて送ること。幹事はこれを日本学術会議事務局に提出し, 事務局は指定の報告様式にしたがってCSAGI本部に送る。

4. CSM に伊藤氏が出席

第2回シノプティック気象専門委員会(CSM)が1月21日からニューデリーで開かれることは先月号で述べたが, 日本からは気象庁予報課長の伊藤博氏が出席することになり, 1月18日羽田を発たれた。

5. 坂元政子女史に学位

坂元政子(淑山政子) 女史は「脚気の疾病地理学的研究」によって昭和32年12月28日東京大学から医学博士を授与された。

6. 会員名簿について

5月に行われる日本気象学会の役員選挙にそなえて, 当学会の会員名簿が改訂される。本学会員で移動のあった方は事務局宛宛連絡をお願いする。

乱流拡散および大気汚染に関する国際シンポジウム

大気汚染に関する問題については, わが気象学会でも昨年春の大会において, これについてのシンポジウムを開き, その結果は「天気」誌上に連載されたが, 本年8月24日から29日まで, 英国の Oxford において International Symposium on Atmospheric Diffusion and Air Pollution なるシンポジウムが開かれることになった。

もともとこのシンポジウムの開催は1956年9月Brusselsにおける IUTAM (International Union of Theoretical and Applied Mechanics) の総会で提案され, IUGG に対して共同主催者となるよう呼びかけがあった。そして故 Rossby, Dryden, Frenkiel, Geoffrey Taylor によって原案が作られ, この案はまず1957年8月 Freiburg における IUTAM の会議で承認された。ついでIAMAP (International Association of Meteorology and Atmospheric Physics) からのすすめに従い, 1957年9月 Toronto における IUGG の総会において共同主催の件も承認され, このシンポジウムのための Joint IUTAM-IUGG Scientific Committee も構成されて, ここに公表の運びとなったものである。

この公表によれば, このシンポジウムの目的とする所

は, 現在この分野で活躍している流体力学・数学・気象学・海洋学等の関係者を集めて, 大気中のすべてのスケールの拡散およびその大気汚染への応用について, 基礎的な事柄を議論することにある。プログラムの詳細や講演者などについては今後 Scientific Committee や Secretary によって決定されるが, 現在考えられている討議内容は次の8つの session から成っている。

(1) 緒論 (大気中の拡散の概観), (2) 大気中の乱れについてのデータ, (3) 乱流拡散理論, (4) 大気中の粒子の trajectory および浮遊, (5) 地表面および対流圏内での輸送現象, (6) 大気の熱的成層状態が拡散に及ぼす影響, (7) 点源および面積源からの大気汚染状況, (8) 結論

なお Scientific Committee のメンバーはつぎの通りである。

Chairman : Sir Geoffrey Taylor (UK)

Members : A. S. Monine (USSR), Y. Ougra (Japan), C. H. B. Priestley (Australia), P. A. Sheppard (UK), J. Van Isacker (Belgium)

小倉義光氏の宛先はつぎのとおりである。

東京都文京区本富士町, 東京大学理学部地球物理学教室